

# 新・東の風

令和3年度

10月号

夏休みの8月2日(月)から始まった緊急事態宣言も本日をもって解除となりました。本校でも、9月6日からの2週間は陽性感染者が数人確認できました。陽性感染者を確認すると、濃厚接触者有無の調査が入ります。「疫学調査」といって、学校側が陽性感染者より聞き取った様々な情報を生野区保健福祉センターに報告して、判定されます。数回行った「疫学調査」の結果は、全て濃厚接触者が無かったと連絡をいただきました。しかし、安心・安全対策として、臨時休校を9月10日の1日、一部学級休業を9月14日から17日の4日間行いました。この間、保護者の皆さまには大変なご心配をおかけしました。まだまだ安心・安全とはいえませんが、感染予防を徹底しながらの学校生活を今後も続けていきます。

よく集会で、「我慢」・「辛抱」が今は大事だ、このことが身につけなくてはならない「粘り強さ」の取得につながると話しています。そんな制限のある学校生活ですが、生徒たちは「我慢」・「辛抱」しながらの毎日を夢の獲得をめざして各自工夫して取り組んでいます。ある新聞の記事に、今回の全国学力・学習状況調査に「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対し、「肯定的回答の全国平均が68.6%と7割を切り、このことはコロナの影響のあおりを受けて、子供たちの夢を奪った」と書かれていました。本校は、74.2%と全国平均より高い数値を示していました(参考:大阪市平均65.0%)。

東生野中学生たちが持っている夢の獲得へのモチベーション(やる気)の高さに感服したしいです。

最後に、ラグビー部が大阪市春季総体で優勝したことで、9月発刊の「中体連だより」に共同キャプテンである丹羽 雄丸君の文章が掲載されましたので紹介します。

僕は、この大阪市春季総合体育大会に出場し、いろいろな経験をする事ができました。新型コロナウイルス感染症で大会が開催されるか不安でしたが、開催していただけることがわかり、僕だけでなくチーム全体のやる気が出て、練習の質も高くなりました。そして、感染予防のために、練習や練習試合が制限されていましたが、逆に対戦チームの試合を見て、短い時間で対策するという経験もできました。時間が短くなるのなら、短いなりに対応する力も付いたと思います。

また、僕たちのチームは、自分自身も含めて、怪我人が多く出ました。1週間ごとにある試合で、怪我をした仲間の代わりに、別の仲間が出ることも多くありました。僕自身、怪我をして、試合に出られないことで落ち込むことがありましたが、代わりに試合にでた仲間が一生懸命チームを引っ張って、勝ち続けることができました。普段試合出場機会が少ない仲間が出ることにより、経験を積み、逆にチーム全体の強さが上がったと思います。怪我人が多いということはチームがうまくいかない場面もありますが、その分いつもより協力する気持ちが強くなり、チームの団結や絆が強くなり、その一人一人の気持ちが優勝につながったと思います。大会がおこなわれたおかげで、東生野ラグビー部が成長することができました。そして、大会を通じて一番得たものは、仲間への信頼でした。この経験を生かして、満足するのではなく、この先の自分たちが目指している府大会・近畿大会優勝につなげていこうと思います。